



学校だより 8.9月号

令和 8 年 8 月 27 日 発行

ふるさとに学び ふるさとで遊び ふるさとを愛する子 ～ふれあいがやき豊かな心～

先生たちって夏休み何をしているの？

校長 藁科 直希



子どもたちや保護者の方、友人などから「先生たちって夏休み何をしているの。」と尋ねられることがあります。私は、教職員にとっての夏休みは、「子どもたちの成長のために、自分自身を磨き、高める期間」と考えています。教職員にとって、日常で見聞きすることや人とのつながりは、授業で取り上げたり子どもたちに伝えたりできる生きた教材の宝庫です。ですので、教職員は常にアンテナを高く張って何か使える種はないかなと考えながら生活しています。もちろんまとまった休みが取れ、休養したり、旅行に出かけたり、読書をしたり、家族との時間や自分の時間を楽しんだりできる貴重な機会でもあります。長期の休暇を利用して取り組んだことや体験したことは、教職員の視野を広げ、貴重な財産、教材となります。また、時間が取れるこの時期に健康診断を受けたり、体力づくりに継続して取り組んだりする職員もいます。教職員がリフレッシュして心身ともに元気な状態で子どもたちと向き合うこともとても大切なことです。

この夏休みの期間を利用して、人権教育、教育課程、不祥事防止、特別支援・児童理解、生成 AI の効果的な活用、傾聴、不審者対応など多岐にわたる研修も行いました。



鴨志田第一小学校、鴨志田中学校と3校合同で行った人権研修の後には、有志の職員でバレーボールを行いました。多くの職員が参加し、気持ちのよい汗を流すとともに、鴨志田の地域の子どもたちと関わる3校の教職員の親睦を深めるよい機会ともなりました。

東京大学で行われた「教育×生成 AI シンポジウム」に本校の複数の職員と参加してきました。OECD 教育スキル局長のアンドレアス・シュライヒャー氏から、「日本の強みは教師と子どもたちの関係性。生成 AI は、教師が教育的意図をもって課題を設計したときに最も力を発揮する」という示唆をいただき、教師の役割の大きさとやりがいを改めて感じる機会となりました。技術が進歩しても、最後は「子どもたちを想う教師の情熱と意図」が一番大切であるということ、改めて教職員と共有しました。

この他にも、教職員は自らの資質能力の向上のために、教育委員会主催の研修、市や区の研究会の研修、民間の研修など、それぞれの担当業務や興味関心に応じて様々な研修に参加しています。自らのこれまでの実践を県や市場で提案し、本校の実践を広めている教職員もいます。

また、夏休み前までの自分の指導や児童の様子について振り返り、授業改善や指導の改善に取り組む、夏休み明けの授業の教材研究や取材をする、かもリンピックに向けて演技の振り付けを考え、練習する、校外学習の下見をする、夏休み明けの畑での活動に向けて、畑の先生と共に、畑の草取りや整備をする、図書館の蔵書点検、地域の祭りに足を運ぶ、鴨志田の地域の方々や学校運営協議会委員の皆様との情報交換をする、校内の環境整備をするなど、夏休み明け、子どもたちと笑顔で出会い、子どもたちの成長につなげるように、夏休みを有効に活用しています。

「教職員の夏休み」が、夏休み明けの子どもたちの笑顔につながると信じています。